

馬獣医のよもやま話④2 野田 龍介獣医師

馬の健康チェックについて

荻伏診療所

野田龍介 (のだ りゅうすけ)

大阪府出身

平成26年3月 酪農学園大学 卒業

同4月 日高軽種馬農業協同組合入社

荻伏診療所勤務

昨年の4月に入社いたしました野田龍介と申します。まだまだ駆け出しですが皆様のご理解とご支援のおかげで、日々診療に励んでおります。

生産牧場では分娩、種付けで忙しい中で子馬や繁殖牝馬の健康管理にも気を配られていると思います。そこで今回は皆さんの身近な話題として馬の健康チェックについてお話します。

馬の健康チェックには様々な項目がありますが、最も基本となるのが体温、脈拍数、呼吸数です。それぞれの項目について説明します。

体温

牛・馬の検温では一般的に水銀式の体温計が使われていますが、最近では20秒ほどで検温できる電子体温計(図1)を使用する方も増えてきています。体温は運動により上昇しますのでたとえば取牧してすぐの検温は避けたほうが良いでしょう。安静時の成馬の正常な体温は37.5~38.2℃であり、当歳は成馬よりも若干高めで38.0~38.4℃くらいです。

安静時で40度近い発熱がある場合は感染症や熱中症の可能性がります。また低体温の場合は貧血や敗血症(循環血液中で細菌感染が拡がっている状態)等になっている危険性もあるので早めに獣医師に相談してください。

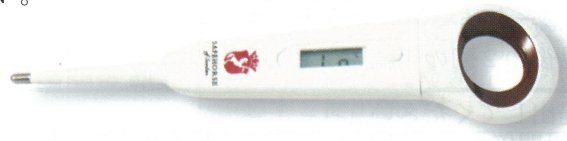


図1 大動物用電子体温計

脈拍数(心拍数)

脈拍数は顔面動脈(図2青矢印)に指を当てて測るか、聴診器を使って心拍数を測ることで脈拍数として測定することができます。聴診器を使う場合は左胸部で心臓の鼓動が最も強く感じられる範囲(図2緑丸)に聴診器を当てて測定します。どちらも慣れれば簡単にできますので、脈拍数の測り方が解らなければ獣医師に質問してく

ださい。

安静時の1分間あたりの正常な脈拍数は、当歳馬で50~60回(生後1週間までの新生子馬は70~85回)、1歳馬で40~50回、成馬で28~40回と成長に伴って減少します。

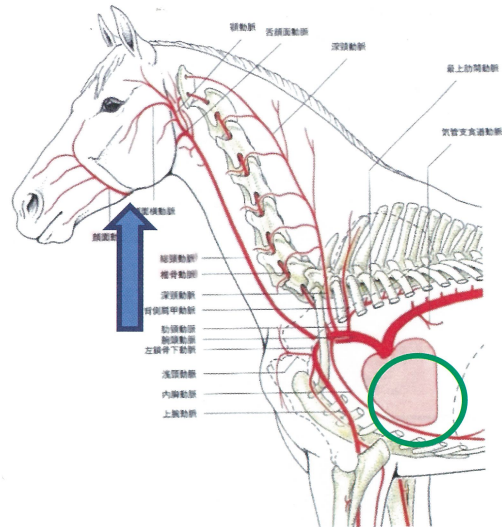


図2 カラーアトラス獣医解剖学より

呼吸数

呼吸数は鼻孔あるいは胸の呼吸による動きを数えることで測定でき、または聴診器を肺や気管にあて呼吸音を聴いて測定できます。安静時の1分間あたりの正常な呼吸数は8~16回ですが、当歳ではそれより高め20~24回くらいの場合もあります。

脈拍数と呼吸数は環境の変化(暑熱など)や運動、発熱あるいは痛みを伴う疾患などによって増加します。また気管支炎や肺炎を発症すると急激に呼吸数が増加します。

多くの動物に共通することとして正常時の心拍数、呼吸数は体の成長と共に少なくなっていきます。成馬と比べて子馬で心拍数・呼吸数が多いのは心臓や肺といった臓器がまだ成長段階にあり、心臓から一回に送り出せる血液の量が少ないことや、肺が一回の呼吸で吸収できる酸素が少ないためだと考えられています。

おわりに

体温、脈拍数、呼吸数の異常は健康状態の異常を反映していることが多いです。特に感染症では重症化させないためにも早期発見・早期治療が重要でありますので、是非検温など簡単なものから日頃の健康管理に取り入れていただければ幸いです。

まだまだ忙しい日が続きますが、人馬ともに健康で過ごしてください。